

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000022		
法人名	有限会社 永真会		
事業所名	グループホーム磯城		
所在地	奈良県磯城郡田原本町阪手496番地の1		
自己評価作成日	平成28年10月25日	評価結果市町村受理日	平成28年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数でアットホームな施設です。毎月折り紙等を使い風景や花などを作成し施設内に飾っています。又、閉じこもりにならないように定期的に外出する機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目の事業所です。同法人の事業所で10年以上の勤務経験がある職員が多く、利用者となじみの関係を築いておられます。1ユニットで、利用者の要望に沿ったケアを提供出来るよう、また、職員も楽しんで仕事に取り組めるように工夫されています。日頃から外出の機会を多く持ち、利用者・家族と職員とで一泊旅行を企画するなど、アットホームで安心できる支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員間で共有しながら生活援助をおこなっている。	理念を玄関に掲示し、職員は出勤時に確認して理念をもとにケアされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症への理解を得てもらう為にも自治会の行事や清掃等には参加させてもらっている。	自治会へも積極的に参加し、地域との交流を深めておられます。利用者も無理のない範囲で参加されています。事業所の夕涼み会などには地域の方も参加され、一緒に楽しんでおられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外の散歩や近隣のスーパー等を利用し、認知症についての理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の家族役場等の行政の方々に参加して頂き、意見交換をし施設運営に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催されています。町・社会福祉協議会・自治会・家族の参加があり活発な意見交換をされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状の人数把握、家族様との連携、入居者様の状況報告をしている。	日頃から、頻繁に連絡・報告が行われ、協力体制を築いておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の巡回回数を増やしたり、見守り、利用者様の様子等を常に把握し職員間の話し合いも密におこなっている。	年に一回は身体拘束についての研修が行われています。また、外部の研修にも参加し、職員間で知識の共有を図っておられます。防犯のため、夜間は施錠されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努め、日々、職員同士の話し合いをし職員の意識の統一をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や書類に目を通して現状の入居者様が利用する際スムーズに活用できるように学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安なことがないか入居者様や家族様にお聞きし、理解、納得して頂けるまで説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、支払時には、施設に来所して頂き施設への要望や意見をお聞きしそのことに対し職員間で話し合い実行している。	毎月の利用料を直接支払いに来ていただくという方法で、月に一度は顔を合わすことが出来るように配慮し、利用者や家族からの意見を汲み取るように努力されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の会議等を行い意見交換し運営につなげている。	毎月1回の会議だけでなく、普段から何かあれば意見を出しやすい雰囲気作りをされています。職員と話しやすい関係を築き、日頃から会話を通じてよりよい運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	課長等が勤務状態を把握しながら各自向上心をもって働けるように相談とうにに応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人社内の研修以外に県の主催する研修等にも参加し、研修後、他の職員にも報告し、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の職員とお互いの施設に置ける相談、活動内容などを話し合い良い面を教えて頂き支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様全員の言動、行動を見逃すことなく、その都度すばやく対処することにより信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話等で不安に思っていること、要望をお聞きし話し合うことで信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入の際に、本人や家族様の意向、必要な支援を話し合いサービス実施をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりにあった出来ることをみつけ協力し合うことで関係が上手く築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様との家族関係や思いなどを常に把握し、共に心の平安を持って頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が希望すれば出来る範囲で馴染みの場所に行ったり、馴染みの人に面会に来てもらったりしている。	基本は、家族が支援されていますが、利用者の希望に添えるように外出やドライブを計画するなどし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう工夫されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様全員の言動、行動を見逃すことなく、その都度すばやく対処することにより信頼関係を築いていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来所して頂き相談事等を傾聴し関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり思いや考え方が違うため、個々に話し合う機会を設け、出来るだけ本人の思いを取り入れている。	日常の何気ない会話や動作から利用者の思いを汲むようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の状況は資料や家族様等にお聞き出来るだけ入居前の暮らしに支援をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムが違うため個々に応じた対応を細やかにしている。変化があればその都度話し合いの場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が意欲をもって課題を達成できるように支援しながら家族の意見も反映させるように作成している。	担当制にすることで継続的に責任を持って計画の立案をされています。月に1回の会議で職員全員で意見を出し合い、ケアマネジャーと意見を交わしながら介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当職員間では意思疎通がうまくとれており情報交換も密に行い実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員全員の意見をとりにいれその都度一番良いと思われる対処法をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報源として地域の図書館へ行き知識をえたり近隣のスーパーで買い物という一連の流れを発揮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかりつけ医で受診されている方や嘱託医に往診をして頂いている方がおられる。嘱託医に関しては常に連絡がとれるようにして頂いている。	入居時に嘱託医にされることが多いようですが、要望があればそれまでの医療機関を継続し、家族と協力して支援されています。緊急時は嘱託医が対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状態を相談報告をし指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療スタッフに定期的に様子を聞き退院後の参考にしたりその後の状態の変化について相談できるよう密に連絡がとれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の同意を得た上でどこまでの支援を提供するか話し合い地域の病院把握と嘱託医への情報を共有している。	これまでに看取りの経験があり、利用者に応じた最期を迎えられるよう、医療機関と家族が話し合っ方針を決められるように支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し参考にしながら研修や訓練を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の非難訓練をおこない施設独自でも訓練している。地域の方々にも協力を仰ぐ。	年に3回、消防署と地域住民も交えた訓練が行われています。訓練は日中と夜間を想定されています。また、水・食料・防寒具などの備蓄は事業所内と外のガレージに設置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人に対する言葉かけを基本として人格を尊重しながら日々対応している。	馴れ合いにならないように職員同士で注意しあい、アットホームな雰囲気大切にしながらも、利用者を尊重した態度で接するように心がけておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者様の思い等が話せる雰囲気作りをし、話しかけをしていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態を把握しながら出来るだけ希望を聞き支援していく。全員でおこなうことも決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後各自自分の服を選んで着て頂いている。女性の方は外出時には化粧をされる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを取り入れメニューに入れる。テーブル拭きや配膳、食器拭きは手伝ってもらっている。	栄養士が献立を作成されていますが、好みのメニューを取り入れるよう話し合ったり、簡単な調理をみんなで行うなどの工夫をされています。また、食事の用意や後片付けも利用者が自主的に行っておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の栄養状態を把握しバランスのとれた食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂き、義歯の片は夜間預かり洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し各自に合わせた声かけをして失敗を減らすように支援しています。	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた見守りなど、個々に応じた援助をされています。夜間もポータブルトイレを使用することなく、必要に応じて誘導支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂取して頂き、その他は歩行運動や軽体操をし身体を動かすようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望を尊重するようにしています。事故のないように見守り支援をおこなっています。	入浴時間は決めておられますが、希望があればそのつど検討されています。時には温泉に出かけ、入浴を楽しむ支援もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自希望された時は休んで頂きます。就寝時間は21時なっていますが希望時間に入床して頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬内容は把握できている、服薬時も飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じて行っている、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出、普段行けない所には職員と共に外出をしている。	職員が外出する時は利用者にも声をかけ一緒に外出するなど、日頃から外出の機会を多く持たれています。レクリエーションとして外食・カラオケ・ドライブなど様々な場所に出かけ楽しんでおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパー等買い物に出かけ支払い時には職員が見守りながらおこなってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがき等本人が希望すればその都度書いてもらう、暑中見舞い、年賀状は毎年必ず出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に見た目もきれいにしています、季節に応じ置物を変えたり工夫しています。	清潔を心がけ、皆で楽しむことが出来るように、職員は絶えず話しかけて会話を楽しんだり、共同作業をしたりして、利用者のほとんどが、日中、フロアで過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士同じテーブルに座って頂き会話を楽しんで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と家族様で相談し気に入ったお部屋にされています。	それぞれの居室には慣れ親しんだものが持ち込まれ、家族の写真なども飾って、居心地のよい居室になるよう支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の安全をはかり明るい空間をとり居室の片付け等は自分で行って頂いている。		